

# 令和六年 第二十五期くまもと俳句ポスト

第二十五期開函

俳誌「阿蘇」主宰 岩岡 中正 選

特選

漱石もハーンも知らぬ炎暑かな

熊本県熊本市

柳田 孝裕

【講評】

「炎暑」という季語は今日、地球温暖化のため、ますます実感を増しています。今日のこの炎暑を、「漱石もハーンも知らぬ」ほどだと、実感をこめて詠んでいるところが正直な句です。さらに、このように今昔の暑さを比較することで、二人の文豪たちを身近に感じている作者です。

わが輩通り賞

花散らす鳥の来てゐる古戦場

熊本県熊本市

宇野木 邦子

入選

あはあはと八雲書齋に春日差

兵庫県神戸市

河原 真紀

富士と池梅の向こうにけぶるなり

東京都三鷹市

加藤 真希子

春の雨傘差しかけて鯉の餌

熊本県熊本市

貴田 雄介

佳作

春の水飲みて鴉の濡羽色

熊本県熊本市

鶴田 信吾

漱石の館静かな初夏の香に

熊本県菊池郡

佐賀 久子

夜桜の散り行くなかに熊本城

熊本県熊本市

野田 有隆

海青き殉教の島枇杷熟れる

熊本県熊本市

山崎 綾子

紅葉見の帰り立ち寄る出で湯かな

熊本県熊本市

坂口 美穂子

桜舞ふ田原坂惜別の時

熊本県熊本市

徳永 恵美子

自転車が残り香揺らす麦畑

熊本県上益城郡

安部 真菜美

早春の城マラソンの平和かな

熊本県熊本市

中村 和徳

投句総数 百二十四句

市内 六十二句

市外 五十句

開函日 令和六年六月三十日